



Innovation for Cool Earth Forum

イノベーション・フォー・クールアース・フォーラム(アイセフ)



第1回 年次総会

開催日 2014年**10**月**8**日(水)
*レセプション: 10月7日(火) 19時~

会場 **ホテル椿山荘東京**



2000年代は1850年以降で最も気温の高い期間であり、温暖化は人為的影響による可能性が極めて高い。IPCCでの最新の報告は、このように結論づけています。気候変動問題は、遠い将来の問題ではなく、今日、地球に住む人類が直面する課題となっています。

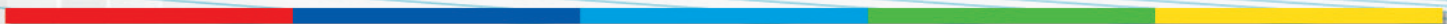
7年前、私は日本国総理として、2050年までに世界の温室効果ガス排出量を50%削減することを提案しました。この大きな目標を実現する鍵は、イノベーションです。そのためには、世界中で最も先進的な知見を共有し、各国政府、産業界、アカデミアの力を結集することが欠かせません。

こうした考えの下、「エネルギー・環境技術版ダボス会議」とも言える会議の創設を提唱しました。これは、世界トップクラスの政策担当者、ビジネスパーソン、研究者が、それぞれの垣根を越えて気候変動問題解決のイノベーションを促進する、過去に例を見ない取組です。

気候変動問題という人類に課せられた課題を克服し、地球の未来を創造していく世界のリーダーの皆様に、東京でお会いできることを楽しみにしております。

内閣総理大臣

安倍晋三





産業革命から増加の一途をたどってきた温室効果ガスの排出を削減し、地球環境との調和を図りつつ人類が発展を続けることは、次世代に責任を持つ我々の責務であり、国境を越えた人類最大のミッションです。

特に、経済成長と共に、エネルギー消費が増大する中で、温室効果ガスの削減を実現するという極めて困難な問題を解決するためには、現在の社会システムを根底から変革することが必要です。これを実現する鍵は、抜本的な技術の革新とその普及にあります。創造的な技術シーズの発掘から、その技術が社会に実装され、実用化していくまで、国、企業、研究機関が協力し、世界の英知を結集して変革に取り組む必要があります。

Innovation for Cool Earth Forumは、世界各国から気候変動問題に関係する政策担当者、ビジネスパーソン、研究者が集い、イノベーションによる変革に向けて知見を共有し、議論し、新たな行動につなげていくためのプラットフォームとなることを目的として設立されました。

世界のイノベーションに重要な役割を担う皆様とお会いし、人類の未来を切り開く取組について、活発に議論される場に立ち会えることを楽しみにしております。

経済産業大臣

小淵 優子



気候変動による生態系や人間社会への影響が明らかになる一方で、世界規模での温室効果ガスの排出は急速に増加しつつあり、温暖化への対応は国際社会の喫緊の課題となっています。全世界規模で経済成長や貧困撲滅と両立した形で温暖化対策を早急に進める重要性が増しています。

2015年12月にパリで開催されるCOP21において、新たな国際枠組みが決まることとなり、現在、政府は全力で国際交渉に取り組んでいます。しかし、気候変動への対応は、2015年で終わる訳ではありません。世界中の国々が低炭素技術の革新と展開をすすめ、官民が連携して長期にわたり実効性のある対策をとることが必要です。

日本は昨年、攻めの地球温暖化外交戦略「ACE: Actions for Cool Earth」を策定しました。「Innovation for Cool Earth Forum」は、優れた低炭素技術の開発と普及を一層促進させる、ACEの一角をなす重要な会合です。技術革新の分野で主導的役割をはたす皆様が、この分野での国際協力推進のために、活発な議論を行うことを期待いたします。

外務大臣

岸田 文雄



気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第5次評価報告書は、いくつかの重要なメッセージを私たちに伝えています。一つには、気候変動がまさに「今そこにある危機」であることです。温暖化にはもはや疑いの余地がなく、海面水位上昇や人間の健康、生計や生態系への重大な影響が予測されています。

また、こうした気候変動による影響を緩和するための行動を遅らせることは、将来の対策の選択肢を狭めることになるとも指摘しています。

今そこにある危機をイノベーションのチャンスと捉え、将来にわたって大幅な温室効果ガス排出削減を確実にするための再生可能エネルギーの大幅な普及、省エネルギーの徹底、低炭素技術の世界への普及など、具体的な行動を強化することにより、経済成長にもつなげていくことが必要です。

世界の英知が結集する「Innovation for Cool Earth Forum」は、こうした環境と経済の好循環、すなわちグリーン経済成長を実現する上で非常に意義の深い会合です。

技術の革新・普及による気候変動対策への貢献について、実りのある議論を期待します。

環境大臣

望月 義夫

プログラム及びスピーカー

2014年10月7日

19:00～21:00

オープニングレセプション

ジュピター (プラザ 4F)

2014年10月8日

09:00～09:30

開会式

オリオン (プラザ 5F)

開会の辞

安倍 晋三

日本国 内閣総理大臣 [ビデオメッセージ]

山際 大志郎

日本国 経済産業省 副大臣

基調講演

内山田 竹志

トヨタ自動車株式会社 代表取締役会長

09:30～11:00

本会議 ①

オリオン (プラザ 5F)

気候変動問題への取組におけるイノベーションの役割

気候変動問題への将来予測を概観し、この長期的課題に向けたイノベーションの役割について、政策担当者・民間事業者・研究者等、異なる立場から議論する。

モデレーター: **デービッド・サンダロー**

元米国エネルギー省 (DOE) 次官

バートラフ・シュミル

マニトバ大学特別名誉教授

山口 光恒

東京大学客員教授、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第三作業部会主執筆者

グエン・ミン・クアン

ベトナム天然資源環境大臣

マシュー・ハンコック

英国国務大臣 (ビジネス・企業及びエネルギー担当)

ローレンス・トゥビアナ

パリ政治学院教授、フランス開発庁理事会理事長、持続可能開発・国際関係研究所所長、パリ気候変動会議特別代表

佐々木 則夫

経団連副会長、株式会社東芝取締役副会長

11:00～11:30

休憩 (ネットワーキング)

11:30～13:00

本会議 ②

オリオン (プラザ 5F)

イノベーション促進戦略

イノベーションの促進と普及に向けた戦略について、政策担当者・民間事業者・金融機関・研究者等の異なる立場から議論する。

モデレーター: **ネボイシア・ナキチェノヴィッチ**

国際応用システム分析研究所副所長

ディディエ・ウサン

国際エネルギー機関 (IEA) 持続可能エネルギー政策・技術 局長

リチャード・K・レスター

マサチューセッツ工科大学教授

ソレナ・サッターリ

イラン・イスラム共和国科学技術担当副大統領

エリック・P・ドレッセルヒューズ

シルバースプリングネットワークス グローバルセールス担当副社長

オグンラデ・R・デビッドソン

元気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第三作業部会共同議長、元シエラレオネエネルギー・水資源大臣

石井 菜穂子

地球環境ファシリティ事務局長

13:00～14:00

昼食 (ネットワーキング)

14:00～16:30

分科会

太陽エネルギー

コスモス (タワー 8F)

座長: **アダム・ヘラー**

テキサス大学リサーチプロフェッサー

マーティン・グリーン

ニューサウスウェールズ大学教授

平野 敦彦

ソーラーフロンティア株式会社代表取締役社長

パオロ・マルティーニ

アルキメデソーラーエナジー ビジネス開発部門 ディレクター

バーツラフ・シュミル

マニトバ大学特別名誉教授

地熱発電

アザレア (タワー 9F)

座長: **安川 香澄**

産業技術総合研究所 再生可能エネルギー研究センター 総括研究主幹

ルッジエーロ・ベルターニ

エネルギーグリーンパワー エンジニアリング & 建設部 地熱研究所

ローランド・N・ホーン

スタンフォード大学教授

松永 烈

日本地熱学会会長

ビャルニ・ビャルナソン

レイキャビクエナジー 最高経営責任者

次世代自動車技術

つばき (タワー 7F)

座長: **デービッド・サンダロー**

元米国エネルギー省 (DOE) 次官

マーク・S・デュヴァル

米国電力中央研究所 (EPRI) ディレクター

カル・ランクトン

テスラモーターズ グローバル EV インフラストラクチャー担当ディレクター

守谷 隆史

株式会社本田技術研究所 上席研究員

フローレンス・ランバート

フランス原子力庁 (CEA) 新エネルギー技術・ナノ材料開発センター ディレクター

フィリップ・A・タンギー

トタル国際科学技術部 担当副社長

大聖 泰弘

早稲田大学教授

省エネ技術

ペガサス (プラザ 1F)

座長: **安井 至**

製品評価技術基盤機構 (NITE) 理事長

中上 英俊

住環境計画研究所 代表取締役会長

ケビン・ファシネリ

ダイキンアプライド・アメリカズ オペレーション 担当副社長

アンドレアス・C・クランヴィス

ハネウェル 副会長

アレックス・ラスキー

オーパワー 社長

アラン・マイヤー

ローレンスバークレー国立研究所 シニアサイエンティスト

スマートコミュニティ

カシオペア (プラザ 1F)

座長: **山地 憲治**

地球環境産業技術研究機構 (RITE) 研究所長

イヴス・バンバーガー

フランス電力会社 (EDF) 会長・最高経営責任者 科学顧問

マーク・アサートン

グレーターマンチェスター環境部門ディレクター

山西 健一郎

日本スマートコミュニティアライアンス (JSCA) 会長、三菱電機株式会社取締役会長

パディ・ターンブル

国際スマートグリッド連合会長、GE デジタルエナジー アイルランド担当ディレクター

RDD&D (研究、開発、実証及び展開) における公的機関の役割

さくら (タワー 6F)

座長: **ホーセン・リー**

IPCC 副議長、高麗大学大学院教授

ディディエ・ウサン

国際エネルギー機関 (IEA) 持続可能エネルギー政策・技術 局長

グウィディアン・プリンズ

ロンドン経済大学名誉教授、ハートウエルグループ共同議長

ジョーグ・エルドマン

ベルリン工科大学教授

チャールズ・ケネル

米国カリフォルニア大学 サンディエゴ校 特別名誉教授

マルザン・イスカンダール

インドネシア技術評価応用庁 (BPPT) 前長官

川合 知二

新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 技術戦略研究センター長

先進国と途上国の協力

ソレイユ (タワー 4F)

座長: **イスマイル・セラゲルディン**

アレキサンドリア図書館長

ガイ・カルーン

戦略国際問題研究所シニア・アドバイザー

ウングル・プリヤント

インドネシア技術評価応用庁 (BPPT) 長官

田中 伸男

前国際エネルギー機関 (IEA) 事務局長

アヴィガッド・ヴォンシャック

ベングリオン大学教授

ジム・フォーク

メルボルン大学プロフェッソリアルフェロー

16:30 ~ 17:00

休憩 (ネットワーキング)

17:00 ~ 18:30

閉会式

オリオン (プラザ 5F)

分科会のサマリーおよび Q&A

太陽エネルギー

地熱発電

次世代自動車技術

省エネ技術

スマートコミュニティ

RDD&D (研究、開発、実証及び展開) における公的機関の役割

先進国と途上国の協力

TOP10 イノベーション発表

運営委員会より ICEF2014 ステートメント発表

閉会の辞

小淵 優子

日本国 経済産業大臣

望月 義夫

日本国 環境大臣

中根 一幸

日本国 外務大臣政務官

19:00 ~ 21:00

夕食会

ギャラクシー (プラザ 1F)

※ 講演者は発表順に掲載しています。

ICEFの概要

昨年10月、安倍総理大臣は、新たな国際会議として、我が国が Innovation for Cool Earth Forum (ICEF) を毎年主催することを発表しました。

本会議は、エネルギー・環境分野のイノベーションにより気候変動問題の解決を図るため、世界の学界・産業界・政府関係者間の議論と協力を促進するための国際的なプラットフォームとなることを目的とするものです。

ICEFは、毎年のフォーラムの開催と、ウェブ上で

の年間を通じた議論を組み合わせることにより、イノベーションの促進を加速させていきます。また、国際的な中立性を確保するため、各国の有識者からなる運営委員会を設置しています。

世界各国から出席を得るため、毎年京都で開催される「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム (Science and Technology in Society Forum (STSフォーラム))」と連続した日程とし、毎年10月に開催いたします。

運営委員

茅 陽一 (委員長)

地球環境産業技術研究機構 (RITE) 理事長

サリー・ベンソン

スタンフォード大学教授

周 大地

中国国家発展改革委員会エネルギー研究所 前所長

オグンラデ・デビッドソン

元気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第三作業部会共同議長、
元シエラレオネエネルギー・水資源大臣

ジョーグ・エルドマン

ベルリン工科大学教授

ホセ・マリア・フィゲーレス

元コスタリカ大統領

アダム・ヘラー

テキサス大学リサーチプロフェッサー

川口 順子

明治大学国際総合研究所特任教授、元外務大臣、元環境大臣

ホーセン・リー

IPCC 副議長、高麗大学大学院教授

ネボイシア・ナキチェノヴィッチ

国際応用システム分析研究所副所長

グウィディアン・プリンズ

ロンドン経済大学名誉教授、ハートウェルグループ共同議長

デービッド・サンダロー

元米国エネルギー省 (DOE) 次官

イスマイル・セラゲルディン

アレキサンドリア図書館長

スーザン・ソロモン

マサチューセッツ工科大学教授、IPCC 第一作業部会共同議長

ローレンス・トゥビアナ

パリ政治学院教授、フランス開発庁理事会理事長、持続可能開発・国際関係研究所所長

安井 至

製品評価技術基盤機構 (NITE) 理事長

参加者

各国の政府・産業界・学界等から約500名、招待制(参加費無料)

主催

経済産業省

独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

共催

外務省、環境省

お問い合わせ

【ICEF事務局】

E-mail: icef-reg@congre.co.jp

会場

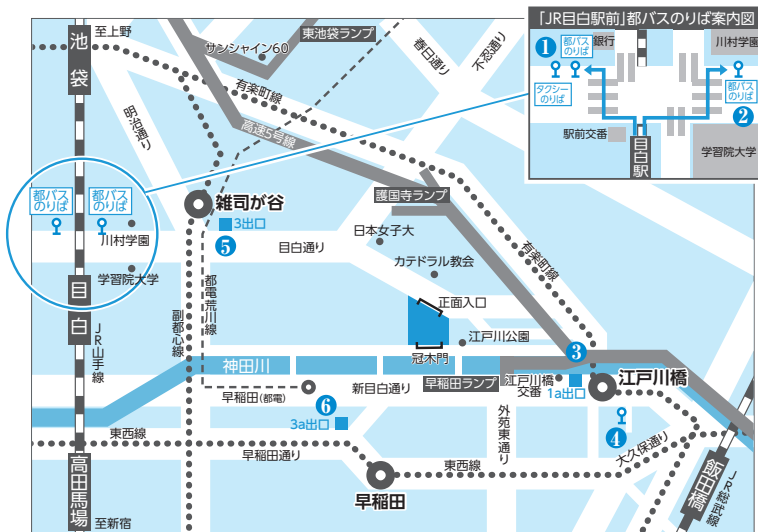
ホテル椿山荘東京

目白駅改札前の横断歩道を渡り、左手のバス停5番乗場「目白駅前」より都バス新宿西口行き、または右手側の8番乗場「川村学園前」よりホテル椿山荘東京行き、新宿西口行きにて「ホテル椿山荘東京前」下車。／所要時間約10分

【料金】 大人 210 円 (IC : 206 円)

乗り場<地図①> 「目白駅前」
白 61 系統新宿西口行き・ホテル椿山荘東京前下車

乗り場<地図②> 「川村学園前」
白 61 系統新宿西口行き・ホテル椿山荘東京前下車
白 61 系統ホテル椿山荘東京行き・終点下車



*冠木門の開門時間は10:00～21:30です(季節により異なります)。

【運転間隔の目安】

<地図①> 「目白駅前」からは平日・土休日ともに10～15分間隔で運転

<地図②> 「川村学園前」からは5番乗場の運転間隔に加え、「ホテル椿山荘東京行き」が土休日の12時から16時までには1時間に5～6本、17時から20時は1時間に4本運行されています。

※詳しくは東京都交通局のホームページをご参照ください。

主催



共催

